

平成 27 年度

# 1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 : グループホーム ひまわり畑

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0392700019		
法人名	医療法人社団晃和会		
事業所名	グループホーム ひまわり畑		
所在地	岩手県一関市藤沢町徳田字馬場10番地2		
自己評価作成日	平成 27 年 9 月 5 日	評価結果市町村受理日	平成 28年 1月 12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0392700019-00&amp;PrefCd=03&amp;VersionCd=02">http://www.kai.gokensaku.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0392700019-00&amp;PrefCd=03&amp;VersionCd=02</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号
訪問調査日	平成 27 年 9 月 29 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

田・畑・山などの自然環境に恵まれた場所にあり、四季折々の草花を身近に感じ、季節感あふれ、ゆったりと過ごして頂けるよう職員一同日々努力しております。また、地域の一員として近隣や地元の方々との交流も盛んであり、様々な行事に参加したりと交流を深めております。田植えや稲刈り、畑仕事など、なじみのあるものへの関わりを大切に考え、心身共に豊かな生活が送れるよう取り組んでおります。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近隣の方々とは地域行事への参加や日常的な交流により野菜などの差し入れや散歩途中に自然に声を掛け合う間柄である。自動火災通報装置の設置にも協力的で、緊急時の協力体制が築かれている。5年を迎える当ホームは、利用者の心身の状態が大きく変化しつつある中、ホームのあるべき姿や方向性を探るべく理念の見直しを含め、利用者それぞれの思いや願いに合った個別ケアが可能となるように、利用者との寄り添いを強めながら、日々のケアに当たっている。管理者、職員の信頼関係も構築されており、チームケアの推進と地域との良好な関係を背景に地域とともにあるホームとしてその役割を果たしていくことが期待できる。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

【評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会】

事業所名 : グループホーム ひまわり畑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を基に職員がチームでケアに取り組み実践に向けて取り組んでいる	玄関に理念を掲示して、日頃から職員のみならず家族等にも理解してもらうように工夫している。ミーティング等でも、理念を確認し、共有、実践に繋げている。見直しは、引き続き今後の検討課題として考えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事(地区健康教室や田植え稲刈りの見学等)自治会との交流を図り、利用者様と一緒に参加している	自治会に加入して地域行事に積極的に参加している。事業所周辺の草刈り作業やゴミ拾い、散歩に出かけた時など、近隣の人たちと挨拶を交わしたり、野菜の差し入れに来ていただくことも多く、気軽に交流が図られる関係となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を開催し、介護職員も交替制で参加したり、地域の方々にも理解して頂けるよう取り組んでいる		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域(自治会長他)や行政の方にも参加頂き、外部から出た意見を会議で話し合い介護現場に活かしている	委員からは、老人クラブとの交流についての提案のほか、利用者の生活面や管理運営面(介護相談員、夜間等の避難訓練、非常時の電源確保等)まで、幅広く話題や意見などが出され、有益な会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政窓口での相談、電話での相談等、日頃から話しやすい関係づくりをしている	書類提出の際、利用者の状況やケアサービスの取り組みを伝えたり、電話などで介護保険や待機者の情報を得るなど連携を図っており、介護相談員や生保担当者の来訪も時々ある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を開催したり、一人ひとり職員が身体拘束についてアニュアルを確認し、日々の業務に努めている	月1回のミーティングや日々の申し送りなどで、ベッド柵や声掛けなど無意識に身体拘束に繋がるケアを行っていないか振り返り確認しているほか、研修を通して職員の共有認識を高めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会や勉強会に積極的に参加し、職員全体で取り組み、管理者・職員ともに、状況把握に努め業務に取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料を用いて学ぶ機会を持ち、スムーズに支援できるよう取り組んでいる		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約・改訂の際には、本人及び御家族様に対し十分な説明を行い、納得・理解して頂くよう努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の意見・要望は居室担当者が中心となり、毎月のミーティングを通して周知を図り、ケアに反映できるよう努めている	居室担当を設け重点的に利用者の意見、思いを聞くようにし、ミーティングで共有し対応するようにしている。家族には、面会時や電話など折にふれて利用者の状況をありのままに伝え、意見、要望を話しやすい雰囲気づくりに留意している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ミーティングを開催し、職員が意見を出しやすい雰囲気環境づくりに努め取り組んでいる	日頃からコミュニケーションを図るよう心がけているほか、年2回個別面談を行い職員の意見、要望を聞くようにしている。主にミーティングで出されることが多く、日々のケアや設備消耗品に関する意見が出されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	アンケートや面談にて、各居室の就業状況・要望をこまめに聞き取り、把握・改善に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修への参加を設け、資格取得や技能向上への講習会等は積極的に受けられるよう配慮している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や施設交流会(法人内や他施設)などを通じ交流を図り、意見交換や相談を行い、サービス向上に向けたネットワーク作りを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日々利用者様とのコミュニケーションを大切にし、信頼関係の構築に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	安心感を持って頂けるよう、丁寧に傾聴し、話しやすい雰囲気・関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを把握し、何を今必要としているかを話し合い、利用者様と御家族様が求めるサービスにつながるよう努力している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様、一人ひとりを人生の大先輩として敬い、日常の家事やレクを通して一緒に取り組んでいる		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族様との連絡を密にし、御家族様とともに過ごせる機会を設け、ともに支え合いながら良い関係づくりに努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や知人・友人等が訪問しやすい開かれた施設環境作り、ドライブや外出等を行い地域の散策に努めている	関係の継続は年ごとに少なくなっているが、自宅近くをドライブしたり、ホーム近隣の同級生に、お茶飲みの声かけをして交流の働きかけなどを行っている。また家族の協力を得て、馴染みの美容室に行く利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性や状態を考慮しながら、利用者同士のつながりを大切に、随時席替えを行うなど、お互い話しやすい環境づくりに努めている		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話や面会にて状態をお聞きし、相談し合える関係づくりに努め、支援に努めている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の様子・会話から本人の思いをくみ取り、ケアカンファレンスにて話し合い、困難な場合は御家族様の協力も得ている	日々の関わりの中での会話や表情、行動から本人の思いを把握するようにしている。言葉で表現しづらい方にはどんなときに笑顔が見られるかなど留意しながら声がけを多くし把握に努めている。	とりわけ、会話が困難な利用者について、本人の昔をよく知る人からも過去の暮らしぶりなどを把握し「本人の視点」に立った暮らし方の思いや願いを探り、持っている力を活かす取り組みを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケースデータ・判定会議資料を参照し、御家族様やご本人様からも情報の提供を受けながら把握に努め、日常のケアに活かしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りノート・生活記録表にて現状の把握に努め、状態の変化に直ぐに対応できるよう心掛けている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスにて話し合い、本人様や御家族様の意向に沿った支援ができるよう見直しを行いながら介護計画作成に努めている	毎月のミーティングで居室担当から本人、家族の思いと職員の気づきや意見を出し合い、職員全体でモニタリングを行っている。身体状況の変化や病状、要望の変化によって随時介護計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録・介護記録・申し送りノートなどの活用を図り、こまめに記録を取り情報の共有に努め、ケアの見直しに努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの身体機能やニーズの把握に努め、その方に合ったサービスに繋げられるよう努力している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会行事等、地域資源を活かし、積極的に四季折々の収穫や交流などできるよう計画を立て支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様・御家族様の意向に沿った医療機関を受診して頂いている。受診時には適切な情報提供を行い、医療機関とのスムーズな関係づくりに努めている	本人、家族が希望するかかりつけ医となっている。受診は職員対応としており、生活記録表の写しを持参し、普段の様子や変化を伝えながら、医師と家族との連携も図っており、利用者、家族の安心に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	変化に対する報告・記録を密に行い、事業所内看護師または、訪問看護師とすぐ相談できる体制をとっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	面会に行き情報交換に努めている。日頃から情報提供や相談を密に行い、良好な関係づくりに努め連携を図っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	法人内、御家族様、関係者等で検討している段階で、具体的な重度化や終末期の対応については、対応が必要になった場合に本人様・御家族様と話し合いながら進めていきたいと思っております	重度化及び終末期への対応指針は、法人内の課題として取り上げ、現在、家族や関係者を含めて、検討を始めたところである。現在対象となる利用者はいないが、今後どこまで対応していけるか引き続き検討していきたいとしている。	現段階で出来る支援について、職員全体で話し合い、方針を取りまとめ、本人・家族等に安心が得られるよう取り組み、その後、随時見直し等により対応指針を進めていく方法もあると思われる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習の受講をはじめ、勉強会等で定期的な訓練を通して、すぐ対応できるよう努めている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練やマニュアルの熟知に努めている。地域の方々にも参加・理解して頂き協力体制を築いている	消防署立会いの下、年2回火災想定避難訓練を行っている。地域の7軒に自動火災通報装置を設置いただき、また避難時の利用者の見守りなどの役割を担ってもらうこととしている。職員も各種講習に参加し対策を講じている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重した声かけを行い、呼び方や話し方、声の大きさなどにも配慮している。思いやりを持った対応を心がけている	人生の先輩、年長者として敬意を払い誇りを傷つけないよう、話し掛ける際は近くに行つて言葉をかけるなど配慮している。居室に入室する際は、必ず声がけして了解いただいてから入室することを徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の思いを傾聴し、信頼関係を築きながら、希望や思いを表しやすい雰囲気づくりを心がけ、ケアカンファレンスにて職員全体で把握し、支援に努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様本位の支援ができるよう常に本人様の自己決定を優先させ支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時や行事の際には本人様の意向をお聞きしている。定期的に訪問理容を利用している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳や下膳、食器拭きなどを一緒に行つて頂き、会話を交えながら楽しい食事となるよう支援している	利用者のリクエストを大切に献立を作り、法人本部の栄養士に助言を得ている。食事作りに参加する方は少ないものの、配膳や下膳、茶碗拭きなど片付けには皆が参加している。お裾分けや家庭菜園の収穫物を話題にしながら笑顔で食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の指導もと、おやつ等もうまく活かしながら、栄養バランスや脱水予防に努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、清潔保持に心掛けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	生活記録表から排泄パターンを把握し、声がけを行いながら、トイレで排泄できるように支援している	職員のケアの甲斐あって、声掛けをする方はあるものの、利用者全員がトイレで排泄がなされている。これが、利用者の生活の自立確保・継続、清潔なホーム維持、そして、職員のものに繋がっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給をこまめに行い、乳製品や食物繊維など、個々に効果的な飲食物を工夫して勧めている。散歩や体操、腹部マッサージなどを取り入れて予防に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的な曜日の設定はあるが、状態をみながら曜日以外でも声がけをしたり、いつでも入浴できる旨を伝え、希望に応じている	週2回は入浴できる支援をしており、お風呂が大好きな利用者には希望により対応している。入浴剤を利用するなど、保湿や癒しに繋がるようにしている。入浴を嫌がる方には無理強いせず曜日を変え声がけしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を通じて、より夜間の快適な眠りができるよう、個々の対応に心掛けている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬剤情報をファイルにまとめ、常にみられるようにしておくと共に、その副作用・用量の理解に努めている。誤薬がないように複数の職員で確認を行い、症状や状態の変化に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事や活動レクを通じ、身体を動かして頂いたり、外出の機会を設け気分転換に取り組んでいる		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望を取り入れ、外出や買い物も機会を設けている。御家族様との外出する機会も増やして頂きたい旨をお願いしている	天候をみながら散歩や買い物など戸外に出る機会を積極的に支援しているほか、遠出の外出時は外食や白鳥見学などバスで出掛けしている。家族の協力を得て墓参りや自宅確認など本人の希望に沿った外出支援をしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いに関して施設側で管理させて頂いているが、希望や外出の際など、自由に使えるようにしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望に合わせて、電話や手紙のやり取りが自由にできるよう支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の清掃や加湿器の設置にて清潔な空間づくりに努めている。季節感のある壁飾りを施している	清潔に配慮し温度・湿度管理も適宜調整されている。明るいきりビングホールには利用者、職員共同の手作りのアイデアが活かされた切り絵、貼り絵などの作品や行事写真が掲示され居心地良い団らんの場となるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話コーナーや玄関前、あずま屋等を利用して頂いたり、好きな席へ移動して頂いたり自由な対応している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様が愛着のある家具や寝具を持ち込んで使用して頂き、本人様が居心地よく過ごせるよう配慮している	備え付けの洗面台、ベッド、エアコン以外は使い慣れた布団やラジオ、時計などが持ち込まれている。出入り口には、花のプレートを掲げ、表札代わりとしている。日用雑貨は押し入れに収納されすっきりと整理されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室に目印をつけたり、手すり、バリアフリー化によって、安全で自立した環境づくりに努めている		